神戸大学海事科学部オープンキャンパス２０１５

「海事博物館の公開」

神戸大学海事博物館は，その前身の神戸高等商船学校や神戸商船大学時代から現在にかけて海事に関する参考資料を幅広く収集展示して教育研究の資に供し，収蔵資料の保管とともに社会変化で散逸しつつあった資料の蒐集に努めてきました。昭和 33 年，戦禍をまぬがれた模型や各方面からの寄贈資料を集めた『海事参考館』が発足します。その後，昭和 42(1967)年の神戸商船大学 50 周年(私立川崎商船学校創基 50 周年)記念事業において講堂の一階部分に現在の展示室が完成したのを機に『海事資料館』へと改称しました。平成 7 (1995)年 1 月 17 日午前 5 時 46 分に発生した兵庫県南部地震（阪神淡路大震災）では，収蔵品，展示ケースや保存棚などの多くに甚大な被害を受けましたが歳月をかけて復興を遂げました。平成 15(2003)年 10 月 1 日に神戸商船大学と神戸大学とが大学統合しましたが，その 1 年後の平成 16(2004)年 10 月 1 日には『海事博物館』へと名称を改めて現在に至ります。

当館の収蔵品は，江戸時代後半に日本沿岸や瀬戸内海で活躍した北前船などの和船模型をはじめ和船の部分実物，船大工の板図や大工道具類，航路図や海路図屏風，航海の安全を祈願して奉納された絵馬，西洋型帆船や商船模型，近代の航海用具，レシプロ機関やボイラー模型，進水式絵葉書，船と船旅や近代の日本商船隊に関連した寄贈コレクションの他に寄贈書籍など約２万３千点を数えます。

実施時間：　１０：００～１６：００
実施会場：　海事博物館
※　事前申込み不要（随時，自由にご覧いただけます）
※　入場無料

展示内容：常設展示及び企画展 2015『大戦中の日本商船と船員の姿』

海事博物館では常設展示の他に毎年７月の「海の日」を記念して企画展を開催し，そのテーマに沿って館内の展示を更新しています。

≪企画展 2015 の開催趣旨≫

本学部の前身は，1917(大正６)年に設立の私立「川崎商船学校」に始まります。その後，1920(大正９)年に官立の「神戸商船学校」に，1925(大正 14)年には官立「神戸高等商船学校」へと改称されました。爾来，日本の生命線を維持するために多くの商船乗組員を輩出し社会的責任を果たしてきました。

先の大戦では多くの船員が物資や人の輸送のために徴用されましたが，残念なことに，徴用船で殉職した船員は当時の日本人船員全体の約 43%，６万人にも及びます。また，この中で 8,000 人以上が 18 歳未満の年少船員だったといわれています。太平洋戦争における軍人の損耗率（動員された人数に対する戦死者の比率）は陸軍で約 20%，海軍では約 16%でありましたことから，徴用船員の比率がいかに高かったかがうかがえます。戦後 70 年を迎え，この企画展では戦前から戦中にかけて活躍した日本商船隊とともに深江の地を巣立った数多くの船員の姿をとりあげ，日本人の記憶から次第に薄れつつある過去の不幸な事実をその証（あかし）として残すものです。

今も昔も，そして将来も，日本にとって不可欠なインフラである海運と船員教育並びに海洋の重要性について，今，考えましょう。